

今月はいのちをテーマに8人のプロデューサーが手がける「シグネチャーパビリオン」をご紹介します。



HP

「シグネチャーパビリオン」について

8名のテーマ事業プロデューサーが、大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を、それぞれ固有の観点から解釈、展開し、未来に生きる人々に繋ぎ渡すパビリオンを建設します。



慶応義塾大学教授
宮田 裕章



繊細なグリッドで作られた大屋根の下では霧・雨・光の現象的なインスタレーションで、森の中と微妙に異なる体験をすることができます。

「いのちを拡げる」

いのちの未来



人、ロボット、アバターの視点が交錯し、「新しいいのち」の可能性を知る展示を行います。
©FUTURE OF LIFE / EXPO2025



大阪大学教授、
ATR石黒浩特別研究所客員所長
石黒 浩



アンドロイドやロボットとともに50年後の未来、さらには1000年先の人間の姿をリアルとバーチャルで表現します。

「いのちを高める」

いのちの遊び場 クラゲ館



音楽家、数学研究者、
STEAM教育家
中島 さち子



ゆらゆらと遊んでいるクラゲをモチーフにした半透明の屋根をもつ外観。

©steAm Inc. & Tetsuo Kobori Architects All Rights Reserved



中央に大きな「創造の木」がそびえたつ2階の「五感の遊び場」。1階はシアターになっていて世界中の民俗芸能や祭り、生演奏を五感全体で楽しめます。



生物学者、青山学院大学教授
福岡 伸一

「いのちを磨く」

null² (ヌルヌル)



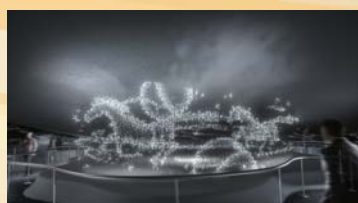
メディアアーティスト
落合 陽一



パビリオンはぐにゃりと湾曲する有機的な鏡面を持つ外観。 ©2023 Yoichi Ochiai / WOW All Rights Reserved.
©2023 Yoichi Ochiai / 設計:NOIZ / Sustainable Pavilion 2025 Inc. All Rights Reserved.



デジタルの自分の分身・デジタルヒューマンを作成し、異空間で自分自身と向き合っているような不思議な体験ができます。



コンピュータで制御されたLED球の明滅によって38億年の生命史を体験し、いのちの動的平衡を知ることができます。